

# 《月々の手入れ》

## 【2月】【3月】

(春の剪定特集)

立春を過ぎても余寒の厳しい日が続く2月ですが、積雪も少なくなるこの時期、いよいよ春ばらの準備です。植替え等の作業は2月上旬までに終えておきましょう。つるばらの誘引も早いに越したことはありませんが、2月中旬までに、冬肥料入れは3月上旬までに終えましょう。

そして、2月下旬からはいよいよ春ばらの剪定時期に入り、剪定後の1カ月は春の訪れを感じながら新芽が伸びるのを待つばかりです。

### 1. 基本的な剪定箇所

- ◎剪定の具体的作業の前に必ず弱小枝、未熟枝をできれば12月の仮剪定で整理しておきます。
- ◎剪定の個所については、先ずその品種の性質を基に、幹枝の成長ぶり、木の年数、栽培目的（品評会、展示用又花壇用等）などを考慮します。若干の違いはありますが総じて基本目安としては、樹高の1/2～1/3位に切詰めます。
- ◎昨年出たシュートは、春の花で最も良花を得られる主幹なので大事に剪定します。剪定の位置についてはシュート2段目の中央部当りを目安に充実した幹の良芽の上で剪定します。

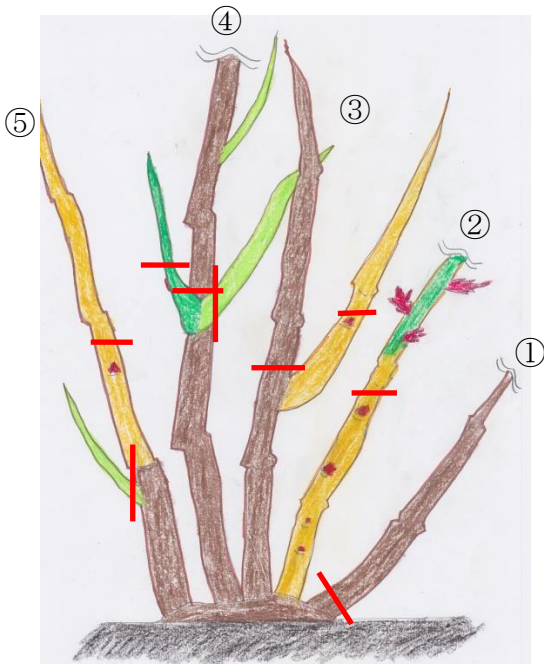


図 - 1 剪定前



図-1-2 剪定後

(1) 図 - 1、図 1-2 の説明

①の枝は2年以上経過した古い木質化した主幹は、株元の剪定位置印から切除(剪定)します。太くて切れない場合はノコギリを使います。

②の枝は昨年出た最も新しい枝(ベイスルシュートと言ひ昨年のシュート枝で3段に処理されています)です。春剪定前の芽の種類の図です。

3段目の先端の緑色した枝先はこのように必ず芽が成長し過ぎています。これはばらの習性である頂芽優勢の現れです。常に枝の先端に栄養を流しているためです。この先端で剪定すると早く咲いてしまいます。しかも緑色の細い枝は、充実していない枝でよい花が咲きません。

2段目の黄銅色の枝の芽が赤く三角形のような大きめの芽が最も充実した芽です。この枝の真ん中付近、—印で剪定します。

1段目の株元に近い枝ほど芽が小さく充実していません。戦略的にこの上で剪定してもよいですが発芽が遅れ、開花が遅れます。

③の枝は2年以上経過した主幹枝ですが、2段目の途中から新しい枝(途中シュート)が伸びた場合で、ここから上の古い枝を剪定し、新しい枝の良い芽の上で剪定します。

④の枝はやはり2年以上経過した主幹枝ですが途中から多くの脇枝が出ている場合です。このような枝が最も多いかもしれません。

途中同じ場所から2本の枝が出ている場合、どちらも充実していて迷うときは、必ず1本にしてどちらか一方を残し栄養の分散を防ぎます。さらにその真上で剪定すると上部へ流れる栄養を集中できます。このように古い主幹枝を残す場合は残す枝数を1本にして栄養を集中させます。

⑤の枝は下に途中シュートのような枝が出ている場合で、この上から剪定したくなるのですが、良く幹枝全体を見るとこの枝よりも先の方が太く充実している場合で、しかも途中シュートの枝が貧弱に見えるときは、この枝を幹の根元から剪定し、充実した先の良い芽で剪定する。

(2) 剪定枝の切り口

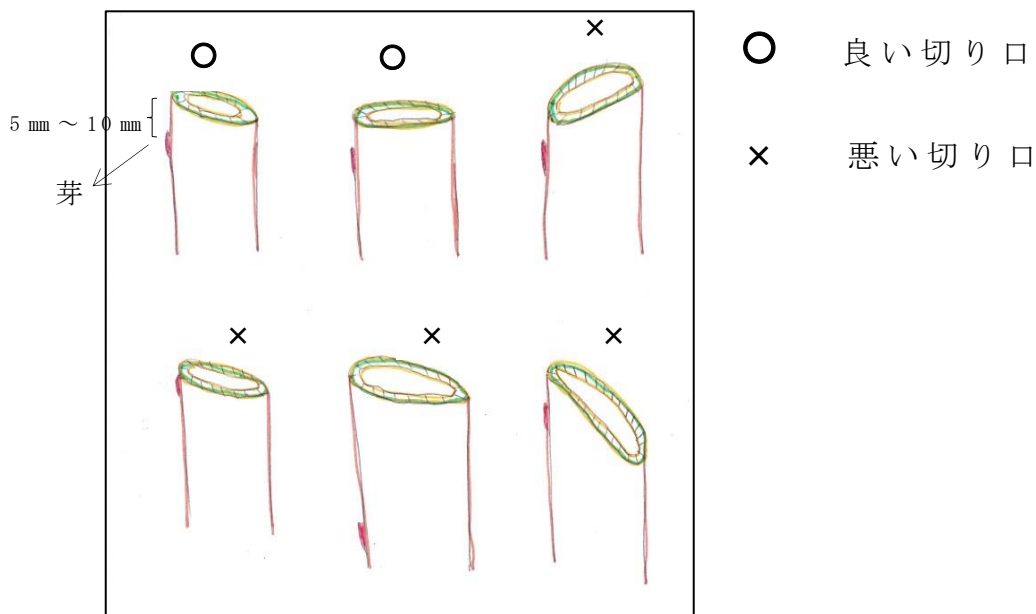


図 - 2

(3) 剪定枝の断面

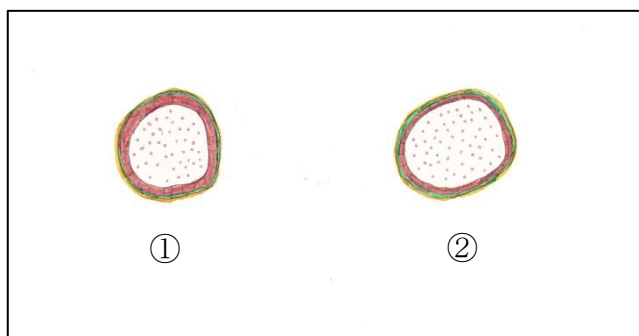


図 - 3

① 充実した幹の切り口  
(木質部が厚い)

② 充実していない幹の切り口  
(木質部薄い)

2. つるばらの誘引

つるばらは新芽が動き出す2月中旬までには終わらせましょう。つる性のばらは長い枝を自ら物に絡めて成長するのではなく、枝が長く伸びて成長していますから物に結んで誘引する必要があります。誘引作業は、気温が上昇して新芽が動き出す2月中旬までに終わらせないとはいけません。長い枝を何本も扱うため枝がこすり合って大事な新芽を落してしまうことになるからです。

また、つるばらの枝は各葉の元の芽からすべて花をつけるのですが、長い枝をそのままにしていると頂芽優勢で、先端付近にしか花が咲きません。長い枝を横に誘引することですべての芽から花が付き、見事な景

観を楽しむことができます。

つるばらは誘引しやすい場所で日当たりの良い場所に植えます。誘引は家の外壁やフェンス、ラティス、ポール、パーゴラやオベリスク、さらにはアーチなどに絡めて誘引することで、それぞれ独特の美しい景観が楽しめます。

### (1) 誘引前

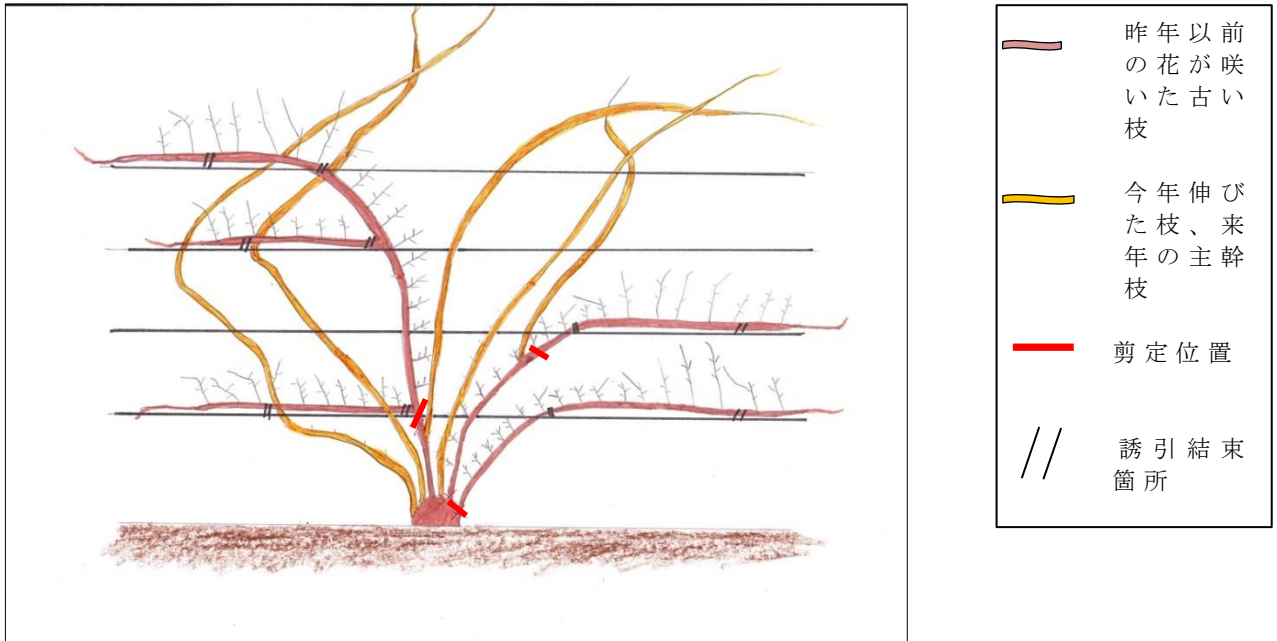


図 - 4

### (2) フェンス等に誘引後のつるばら

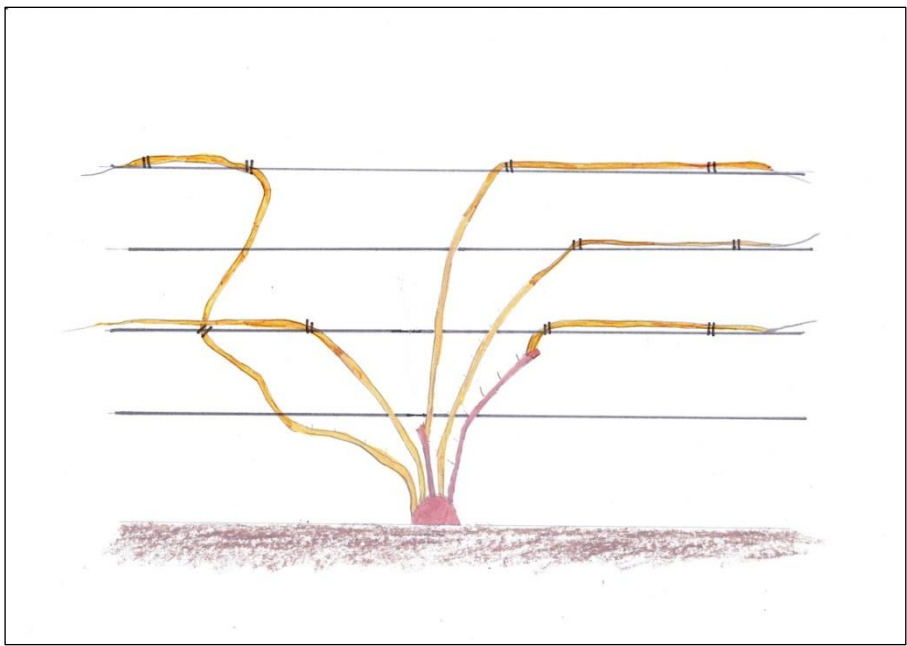


図 - 5

### 3. 木立性ばらの剪定

#### (1) 冬前の仮剪定

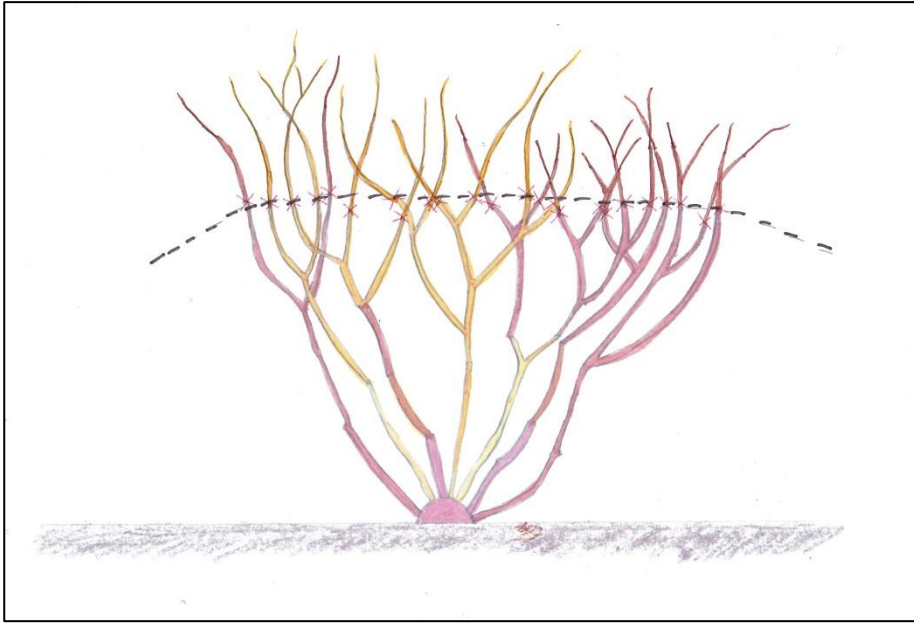


図 - 6

図 6 は秋の花が終わって冬季休眠期に入る直前(当地では 11 月下旬から 12 月)に長く伸びた枝は 1/3 ~ 1/4 ほど切除して冬越しに備える。これは冬季休眠期前に余計な養分を浪費することを防ぐためです。

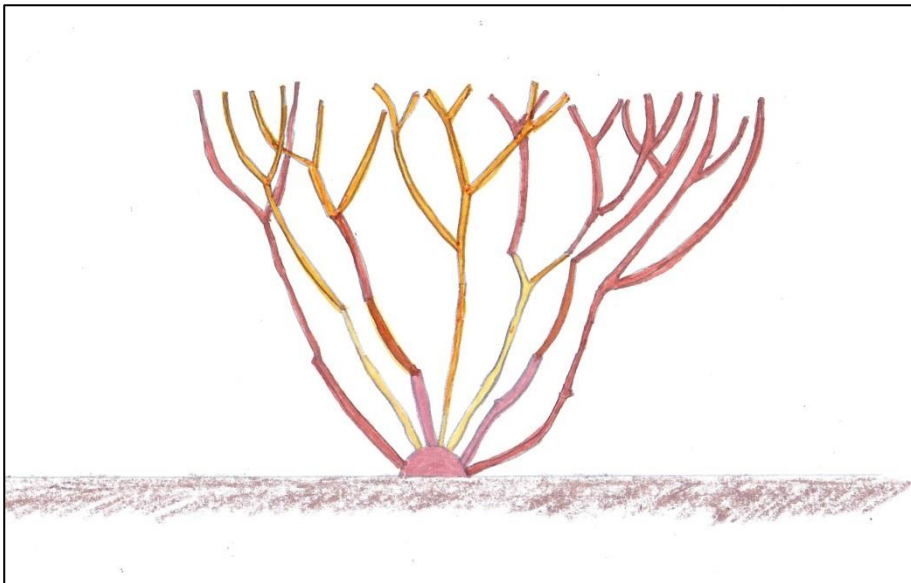


図 - 7

図 7 は冬前の仮剪定後の姿です。このまま春を迎えて新たに剪定しなくても一応花は咲きます。



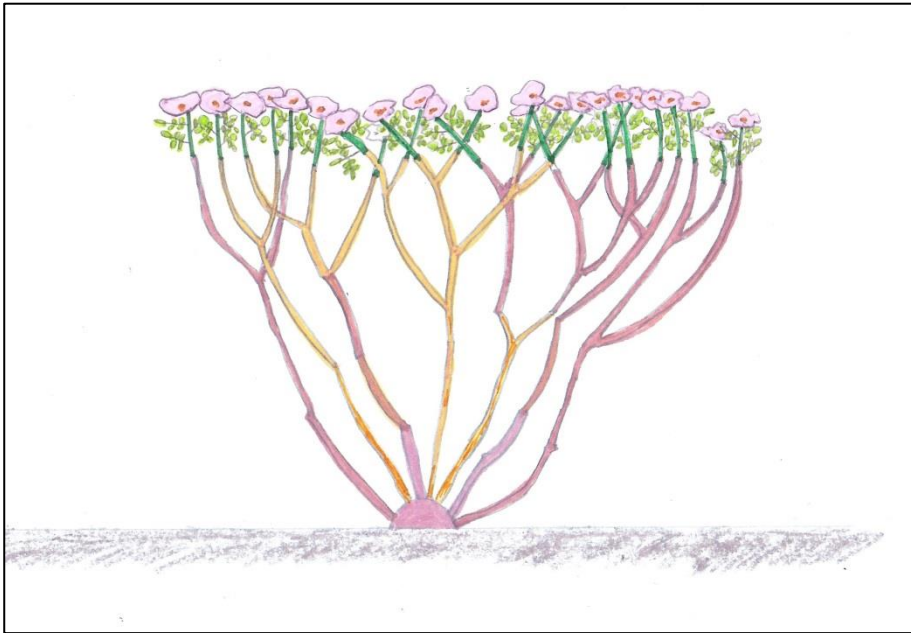


図 - 8

前図7の高剪定でも春の花は咲きますが、左図8のように花枝は短く房咲き種の場合、より多くの房にはなりにくい。HTの場合には花は小さくなります。

(2) 春の本剪定

春の本剪定時期は5月の中旬、第4週の展示会あたりに咲かせるには、天候にもよりますが当地では2月下旬から3月上旬が春の剪定適期と言えます。

秋と違ってこの時期に1日から5日間ほど剪定日が前後しても春花の咲く日にそんなに影響はありません。房咲をそろえて咲かせるFL種等は、中央の親蕾を取るために開花が遅くなりますので、2月中旬ごろから剪定することを勧めます。

逆に早咲き種は3月10日過ぎに剪定すると若干遅らすことができます。

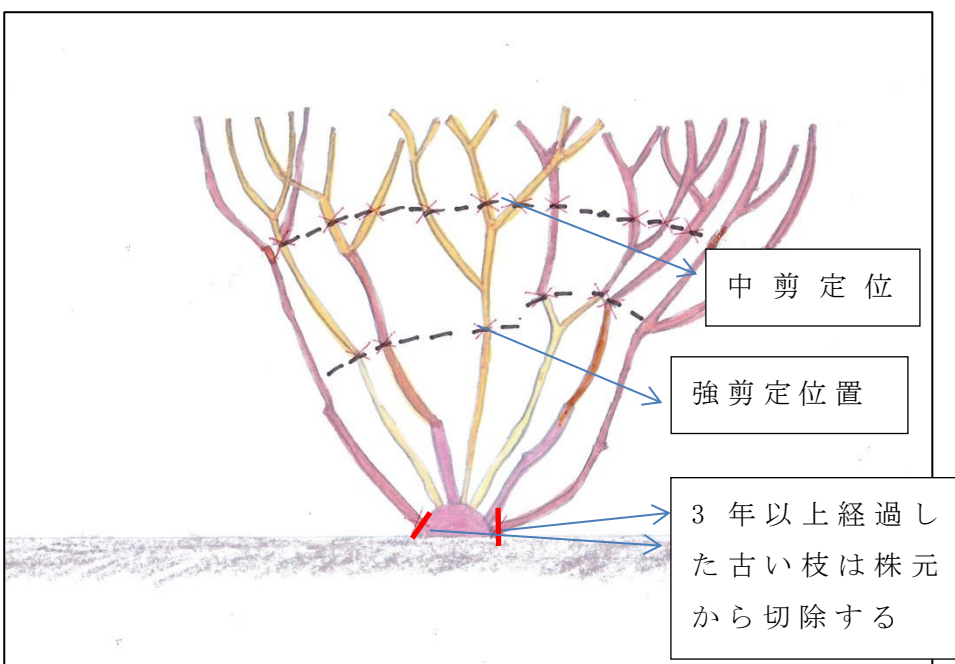


図9は目的に沿った剪定位置の例

図 - 9

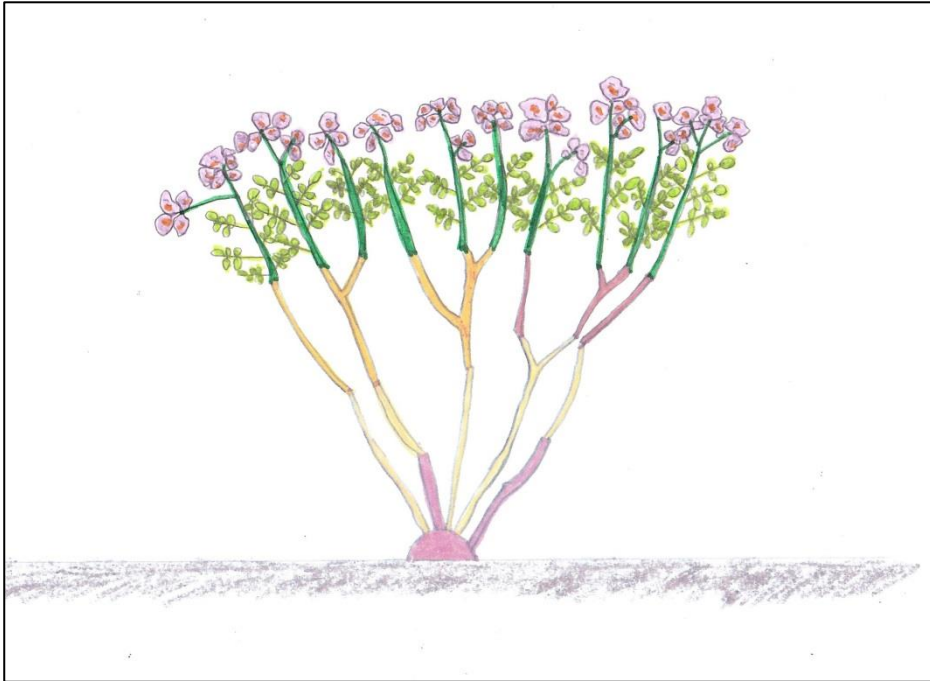


図 - 1 0

図 10 は中剪定した花の咲き方、花枝はやや短いものの花数、房咲き等標準的に咲き花壇やガーデン向き。イングリッシュローズなどはこの剪定によります。

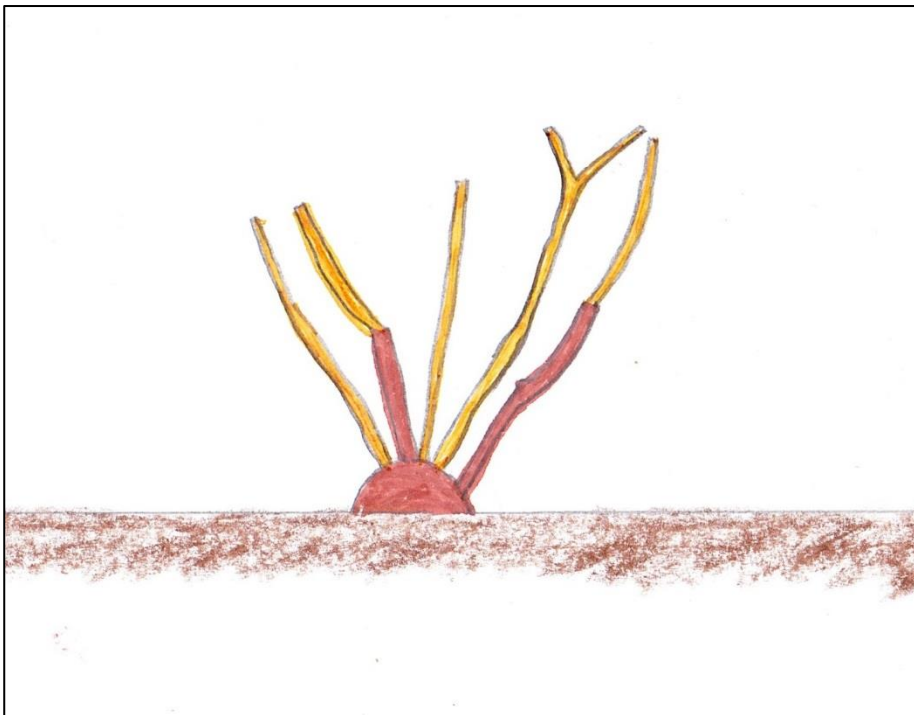


図 - 1 1

春花向き強剪定  
春の特にHT種はこれくらいまで強剪定します。高剪定、中剪定よりは開花は遅れますが、枝(ステム)が長くなり大きな花が咲きます。FL種でも大房咲きの良い花枝となり、コンテスト向きです。

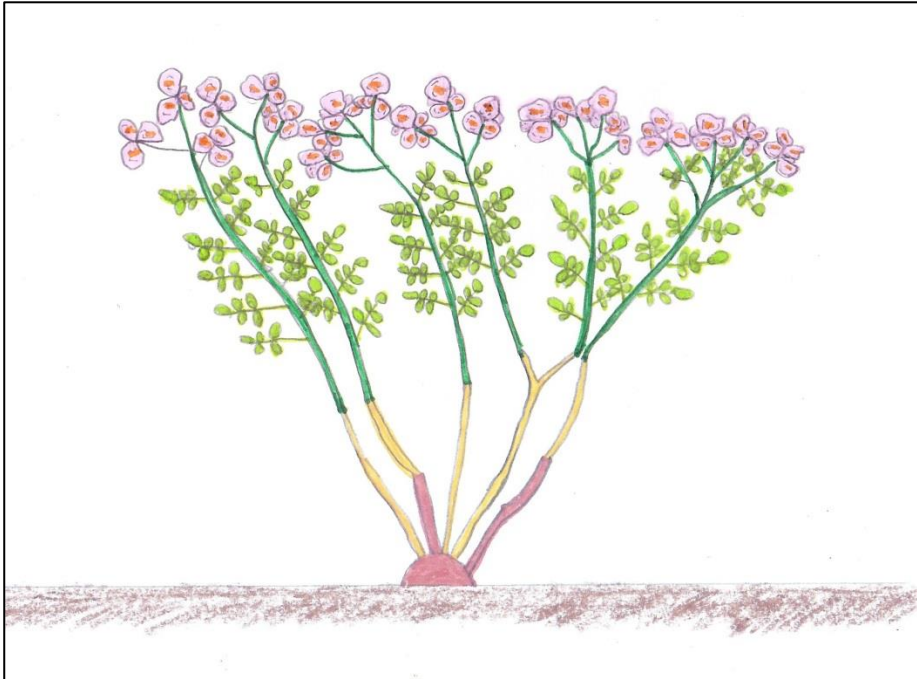


図 - 1 2

房咲き種の強剪定時の花

花枝は長く房咲きの場合大房咲きでたくさんの花が咲きます。

### (3) 鉢植えの剪定

鉢植えの剪定は基本的には地植えと同じですが、地植えよりもさらに強剪定します。理由は同一品種の場合鉢の方が早く咲くためです。

## 4. 灌水、マルチング

当地ではこの時期、外は毎日雪か雨で土が乾くことはないので灌水の必要はありません。ただ、屋根付きの施設等で栽培の場合 2, 3 週間に 1 度の灌水は必要です。マルチングも土が乾くことがないのと雑草も生えないので必要ありません。

当地の春灌水時期は、4 月ごろに雨の降らない日が 3, 4 日以上続き、土の表面が乾き、しかも花芽形成期が終わる時期(新芽が 3, 4 cm で第一本葉が展開する)です。

## 5. 消毒

かつては冬期に専用の消毒を必ず実施すること、と教本には書いてありますが、冬季の消毒剤、「石灰硫黄合剤」「マシン油」は、使用后噴霧器を完全に洗浄しないと器具の金属部分が錆びてしまう恐れがあります。うどん粉病や、黒星病の根絶には効果があるとは思えません。

これらは冬季貝殻虫防除の目的に使用しますが、ぼらの幹に付いた場合は株元から剪定切除します。株全体が侵された場合は植え場所を変えたほうが賢明です。冬消毒は必ず実施する必要はないと考えます。一番



先に黒星病やうどん粉病になるばらを排除した方が得策と考えます。

当地の春一番の通常消毒は4月中旬から下旬です。

## 6. 施肥

冬肥料を12月から1月に施肥していない場合は、遅くとも3月上旬の春剪定前後までには冬肥料を入れてください。

冬肥料とは冬季専用元肥のことで、有機質のリン酸、カリ分を3：1の割合で入れます。リン酸、カリ分は年間施肥量のほとんどをこの時期に与えてもよいくらいです。

(参考：ばらの年間施肥量、窒素：リン酸：カリ=50g：150g：50g)

例：リン酸専用肥料(バッドグアノ、骨粉)を20%含む肥料は100gに20g含まれているので $150 \div 20 \times 100 = 750$ gが年間必用量

一般的な有機肥料の施肥は鉢植え、地植えとも花芽形成期の後、4月上旬位に施します。特に鉢植えはお忘れなく。ただし地植えHT種にはほとんど必要なく肥料過多に注意が必要です。

注：冬肥料に窒素・リン酸・カリ=5：6：3ぐらいの一般的な有機質ボカシ肥料を450g投入すればよいという意味ではありません。使用する肥料の3要素、窒素、リン酸、カリの成分を必ず確認し、意識して施肥してください。

注：この時期に生の有機単肥料は絶対に投入しないでください。油粕、カニガラ、魚粉粕などは土の中で醗酵して肥料成分となるまでに1カ月以上時間を要し、肝心の花のできる花芽形成期やその後に効いてきて肥料過多のばらとなるからです。

注：植替え直後のばらは、地植え・鉢植えとも2,3週間おいてから冬肥料を与えたほうが安全です。特に根を半分以上切って完全に土を落した鉢の植替え直後の肥料は、たとえ有機肥料の置き肥料でも根を傷めることがあります。



競技用HT、プリンセス・ノブコの剪定前と剪定後、特に春よりも



秋に期待するため前年のシュート枝以外はすべて切除し、強剪定とした。



フロリバンダ、「ホット・ココア」の剪定前と剪定後



フロリバンダ、「スウィート・ムーン」の剪定前と剪定後、高性のフロリのため、強剪定とした。ただし遅咲き種